

竜洋町

地形概況

天竜川河口東側の砂礫質低地からなる。曲流した旧流路の跡が敷地から平松へと連続し、自然堤防の高まりがその東西に平行する。旧河道の低地は盛土により改変された。河口付近は送流物質による堆砂が進み、海浜・砂礫堆と後背湿地が海岸線と平行する。

地質概況

天竜川下流低地で扇状地の砂礫層からなる。曲流する旧河道にそう低地は泥層からなり低湿であるが、埋めたてや盛土で改変された。河口東部は砂礫堆と砂堆が広く分布し、砂層・砂礫層からなる。砂堆に閉塞された低地は砂泥の互層であって堆積地となっている。

気象概況

年平均気温は推定 15.6°Cと県内でも気温が高い地域で、特に冬は暖かく真冬日がほとんどないが、季節風が連続して吹くことが多い。年平均降水量は推定 1,900mm と県内でもかなり少ないが、4月から8月にかけて全降水量の約半量に達する。

災害事例 地震

- 1944年12月7日（昭和19年）東南海地震 M=7.9
県中・西部で被害が大きく、当地も掛塚で全壊25戸、半壊87戸、十束で全壊44戸、半壊67戸、袖浦で全壊41戸、半壊73戸の被害があった。また各所で道路の亀裂、庭の地割れを生じ、田畑などから水や砂を噴き出した。井戸の中に土砂を噴き上げて使えなくなったところもある。震度は松本で6～7、東平松・平松・駒場で6、金洗・白羽・掛塚・本町・敷地で震度5～6である。
- 1891年10月28日（明治24年）濃尾地震 M=8.0
掛塚村地内天竜川改修護岸堤馬踏に長さ約30間、腹附に約90間、幅6、7寸の割れ目を生じ、犬走りなどを破損した。
- 1854年12月23日（安政元年）安政東海地震 M=8.4
全県下に大きな被害があった。当地でも掛塚では家屋の潰れ200戸、また潰れ同様に破損した家300戸という大被害で、駒場でも村中の家は95戸潰家、その他半潰、十束村で家屋の倒壊おびただしかったという。その他、地割れからの泥水噴出、土地の陥没、天竜川の堤の破壊などが各所で起こった。震度は掛塚・駒場で7、中島で5であった。

災害事例 津波

- 1854年12月23日（安政元年）安政東海地震津波
全県沿岸に被害を生じたが、当地では駒場村で津波が天竜川をさかのぼり、海岸から30町で汐高は平水より1.5丈高く、川口の中ノ浜(中河)が崩壊した。掛塚での津波の高さは4.5mである。